

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 6 年度第 1 回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和 6 年 8 月 2 1 日（水） 午後 2 時～3 時 3 0 分
開催場所	高松市役所 1 3 階 大会議室
議 題	(1) 審議事項 令和 5 年度高松市生涯学習事業の推進状況報告について (2) 報告事項 ア 地域学校協働活動の推進について イ 家庭教育推進事業について (3) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	—
出席委員	山神委員、岡委員、松下委員、野上委員、山口委員、合田委員 (欠席委員 3 名)
傍聴者	4 名（定員 5 名）
報道記者	0 名
担当課及び連絡先	生涯学習課 8 3 9－2 6 3 3

会議の経過及び結果

(1) 審議事項

令和 5 年度高松市生涯学習事業の推進状況報告について

生涯学習事業の推進状況報告について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

「自主学習スペース事業」について、こういう公的な場所が増えていくといい。色々な利用者がいるというのは学びの機会が増えてよい。「自主学習スペース」という名前だと、学生向けとか高校生向けに感じるので、何か楽しそうな名前も決めればいいのか。

(委員)

「保育所・幼稚園への出前食育事業」について、効果とか、保護者からの意見は出てきているのか。子ども会の方でも保護者を対象にした食育の講義を行ったところ、良い意見も出てきたので、小・中の子どもたちにも広がっていけばいい。

(事務局)

担当課から詳細な状況の把握ができていないので、確認次第報告する。

(委員)

「学校・地域連携システム推進事業」について、新聞にも掲載されて、取組を理解したが、これにより、地域との連携とか良い点もたくさん挙げているが、大きな課題となっていることがあるのか。

(事務局)

大きな課題は今のところ届いてはいないが、今後コーディネーターに聞き取りを行い、課題点や改善点を把握し、他の学校への周知や研修に取り込んでいく。

(委員)

学校と地域の双方向という形をメインにしながらも、社会全体で子どもを育て、家庭・地域の教育力の向上に貢献する狙いがあり、家庭への影響力とか見えているところはあるのか。

会議の経過及び結果

学校運営協議会が重要な役割を果たしているの、それを通しての家庭への影響なども把握できると思う。

(委員)

前年度を下回った事業で「夏休み子ども歴史講座」と「市民登山学校」について、どういった形で周知していたのか。また、対象者はどうなのか。

(事務局)

詳細な周知方法は把握してないが、一般的な周知方法としては、広報紙や市のホームページで周知している。「夏休み子ども歴史講座」は小・中学生が対象なので、学校を通じて何らかの周知は行っていると思われる。

「市民登山学校」についても一般的な周知方法であると思われ、チラシをコミュニティセンターや市有施設に置くなどしているが、特別な対応をしているわけではないため、コロナで利用者が減った状態から戻すまで至っていないので、十分な周知方法を今後考えていくのかというところである。

(委員)

イベントを参加型にする場合には、情報発信のやり方の改善と言われるが、企画内容やターゲットなどが影響すると思う。情報発信、広報のやり方だけでなく、内容面の再確認との両面でやっていくことを検討いただきたい。

情報発信も、若い人や保護者はSNSで情報を集めるので、そちらも非常に参考になるのではないかと思う。

(委員)

「高松市夜間教室事業」については、家庭の事情で、不登校歴が長い方など、色々な背景で、義務教育段階の土台に空白があることが、学び辛さに直結しているということなので、一人一人取りこぼさない地域の学びの環境の土台として、この事業は今後拡大していくニーズはあると思う。開催場所などの運用状況はどうなっているのか。

(事務局)

この教室は今年度で3年目であり、会場は全て生涯学習センターまなびCANの研修室で開催している。現在の受講生は9名で、研修室の定員のにもちょうどよく、指導員も付き、大変いい雰囲気を実施できている。

(委員)

まなびCANはアクセスしやすい場所で非常にいい。今、受講生が9名ということで、この素晴らしい事業があるということが多くの市民に届いていないのではないか。不登校や引きこもりなどかなりの当事者がいる中で、この場所に来て学ぶことによって、人との関わりを持つことの自信を付けている方もいると思うので、事業名はもっとマイルドで明るいものを検討できないか。

精神保健センターなどを利用している人への案内のような形で、学習空白ができての方への周知など、受講生が増えすぎても大変だということ、伴走支援型で行っていることは十分理解しているが、学びの姿といったところでは、今後の市民教育として、学び続けていく、取りこぼさないという姿勢においては、拡大していく方向性を是非検討していただきたい。

仕事や家庭の事情などにより、全ての会に出ることが難しい人もいると思うので、オンデ

マンドとか、フレキシブルな時間で確認できるような形だと参加しやすい方もいると思われる、期待している事業なので、前向きに色々な形で広げていただきたい。

(委員)

学び方の部分については、4つの重点項目の4つ目のポストコロナを視野に入れた新たな学びの形の転換という捉え方の1つの例だと思うので、この視点も非常に重要だと思う。

(委員)

夜間教室ということで、中学校卒業以上の年齢の方が対象であると思うが、今現在不登校の子供たちにとっても、学校の管理下に限らず、民間の企業でも色々な不登校支援があるが、そういったものが、子どもたちも、保護者にも有った方が楽だなと思える。学校という縛りの中にいる子どもにとって、学校に行くのは怖いけどまなびCANみたいなところなら行けると、安心感も場所が変わるとあるので、市だからこそできる、昼間の子どもたちの受け皿みたいな場所ができればいいと思う。

(委員)

まさに、まなびCANという名前のおり、色々な学びができる、対象者も含めて、そういったものを考えていただきたいということだと思う。

昔からよく居場所と言われるが、居場所の在り方、子どもや保護者の心の様子も複雑化してきているので、まなびCANあるいは他の施設など、市として考えられることがあるのかという、きっかけになる話ではあると思うので、可能な範囲で検討していただきたい。

(2) 報告事項(ア)「地域学校協働活動の推進について」

地域学校協働活動の推進について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

コミュニティの再生ということでこの活動は、どちらかというと、子どもたちの学びの環境が開かれた学校にすること、地域の再生というところを、学校をキーに、まちづくり、地域づくりを作っていくということだと思う。

参加している地域の住民の方々も今は元気で学校のために何かしようと、課題をみんなで解決しようという、エネルギーがまだたくさん残っていて参加されていると思う。

今後、急激に高齢化が進み、介護サービスの提供が、地域によっては苦しい状況が出てくることが見込まれる中で、子どものことを地域の人たちに知ってもらい、安全を守ってくれることもある一方で、逆に地域の方が子どもたちに知ってもらうことで、孤立を防ぐなり、安全を一緒に確保したり、元気をもらったり、コミュニケーションを図れたりということがあるのではないかと、コミュニティの再生というところを見て感じた。副次的な効果かも知れないが、幅広い世代の方に、学校をハブとして、顔の見える関係を広く作り、今までの現役世代や、特定のことが得意な方だけが参加できる形というより、幅広い方が、この事業と一緒にあって取り組んでいただければいい。

(委員)

幅広く、3世代で、防災をやっているという紹介もあった。色々な事業もそうだが、防災についての部分は、まさに地域と学校が一緒にやることは、南海トラフ地震等の災害のときに、生きてくるのではないかなと思う。

今後、目標値、コーディネーターを広げていくということなど、色々な内容を当然考えてはいると思うが、南海トラフ地震についての防災に関しては、特にこれから重視すべきではないか、命を守る効果とか得ることも多々あるかと思う。

(2) 報告事項(イ)「家庭教育推進事業について」

家庭教育推進事業について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

「家庭教育応援講座」について、学校に委ねるのではなくて、教育委員会が主催で、年に1回でも、やってもらえたらと思う。今の子どもたちや、保護者の方に大事なことをセレクトして、市や、教育委員会が年に1回でも開催すれば、休みの日など、保護者の参加しやすい形でできるのではないかな。委ねるのではなく、自らやっていただきたい。

こういう講座やコラムがあるというチラシがあれば、見てみようかなと思うのではないかな。一般の保護者が学校にこういう応援講座があるというのは知らないなので、PTAとか学校にこういう先生を呼んでくださいという声が、もしかしたらあるのかも知れないが、誰のどのような話があるのか知らないというのもあるので、そういったチラシが配布されればいい。

早寝早起き朝ごはんについて、大事な事とは分かるが、幼稚園から中学校の3年間までずっと同じ内容でやる必要があるのか。その都度、年度ごととか学期ごとに、内容を変えろとか、同じことをずっとするより、ちょっと変えてみるというチャレンジをすることで、何か違う、何かが変わるかもしれないのでは。

(委員)

非常に貴重な意見だと、学校で当然やっていくということがあると思うが、教育委員会としてというスタンスも必要ではないかな。チラシ云々については、早寝早起き朝ごはん、これは本当に長い期間やっているが、これに運動が入ってない。健康の三原則は、運動・栄養・休養だが、「ちゃんと食べ、しっかり動いて、ぐっすり眠る」、こういうキャッチフレーズを県に伝えたりしたこともあるが、今後、チラシ、色々な講座があるとか、コラムがあるとか、たくさんあるが、ニーズに応じたテーマや、キャッチコピーを示す、そうでないと中々関心を示してもらえない部分もあるので、そういったところも新たなものでやっていくことも関係すると思う。

(委員)

(ママカフェを始めたきっかけを聞かれて) 自分自身に子どもが3人いて、余裕がなく、いつもいっぱいだったという思いがあり、それが子どもに影響したと感じている。がむしゃらに肩に力を入れて子育てをしてしまったという反省点がたくさんあることから、とにかくママに笑っていて欲しい、肩の力を抜いてママが笑っていると、子どもたちが本来の姿で成長するのではないかと、自分の経験上すごく思っていた。高松は転勤族の方も多いので、そのママたちが少しでも笑顔になれるようにということで、未就園児の親子が集える場所が必要と思い始めた。

その中で、ママたちがその場所に来て、そこでコミュニティを作ったり、友達を作ったり、ボランティアのスタッフも孫育ての世代の人たちで、受容範囲が広く、自分たちの子育てを経験しているので、小さなことを気にしなくていい、とにかく今日楽しければいいという感

じで、そうすることで、すごくリラックスしているので、まず、ママが笑顔になれるように、自分は家庭の中でそれが一番大事だと思っていて、まずは自身の反省から始めた。

(委員)

とても参考になる話だと思う。親が心の余裕がないと子どもはそれにつられるという、やはり親を見ているので。反省と言われたが、すごくいい提案をされていると思う。

全体に言えることだが、動画再生とかコラムアクセスも増えていて、その中で、どのようなものを受けているのか、双方向から見られるので、そうした分析や、ニーズの把握、インタビューをして回ったというものもあった。生の声は非常に重要だと、現場に市の方が行かれたという話もあったが、いいことだとだと思う。今後ほかのジャンルにおいてもやる必要は大変だがあるかと思う。ニーズの把握についても、もう少し力を入れたら、もっといいものができるのではないかと思う。

(3)「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。

取り組んでいることで、紹介したい内容がないか確認する。

【事務局からの報告事項】

・まなびCAN「夏休み期間中の図画・工作・書写スペースの無料開放（試行実施）」についてを説明

(委員)

まなびCANも色々な内容で使える、そういう新しい試みだが、夏休み前にチラシを配ったのか。

(事務局)

利用者の希望を聞いて何とか夏休みに間に合わせるために、直前に配布とInstagramでの周知、また、夏休み前の自主学習でも配布したが、十分には知られていないと認識していて、次回は早めに周知するようにしたい。

(委員)

色々なやり方を工夫するのと、時期的には早いほうがいい。

その他意見等はなかったので、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。

以上